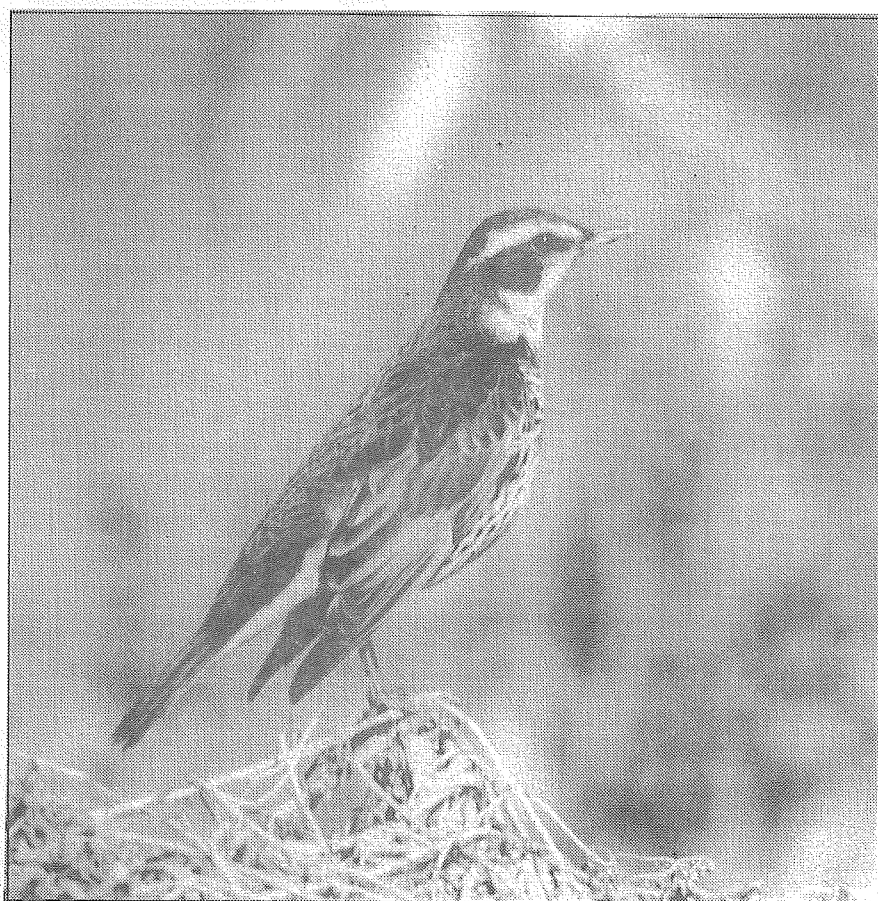


1985・2

第 9 号

# しらこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



## 会ってみたい珍客たち

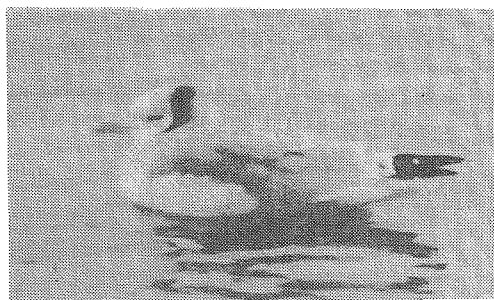
身近かな普通の野鳥たちが大切であることは十分に承知していても、めずらしい種類を見たいバードウォッチャー心理も否定できないところ。昨年暮れから今年初めにかけて珍

鳥の発見が相次いだのを機会に、今月号は少数派特集。埼玉県内では稀少種とされているものの内、比較的最近の7種を選んで御紹介しよう。

### ミツユビカモメ（カモメ科）

本年1月3日午後0時20分ごろ、大宮市深作、深作沼調整地で成鳥が2羽、森本国夫によって発見された。すこし下にそっている様に見える黄色のくちばし、黒い足、後頭部の模様、翼の先端が三角形に黒い事などが特徴の、ユリカモメより少し大きいカモメ。北海道北部では夏にも見られるが、普通は冬鳥として海上に渡来する。本によっては、陸からやや離れた海上に多いと書いてあるものもある。内陸部に飛来することは極めてめずらしく、埼玉県内では初めての記録と思われる。

近くのつり堀や川へ採餌に飛んで行き、戻って来ては水面に浮いて休息していた。



### シノリガモ（ガンカモ科）

昨年12月8日午後1時半ごろ、浦和市立大谷口中学校野鳥研究部員の近藤宗君（2年生）らによって、浦和南部地区調整地掘削工事現

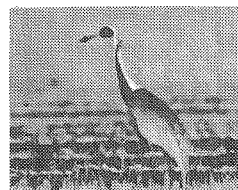


場の池（浦和市太田窪、大谷口、円正寺にまたがる地区）に、成鳥の雄1羽がおりているのが発見された。冬鳥として本州中部以北の岩の多い海岸に渡来する。関東の内陸部で発見された例としては、栃木県の日光中禅寺湖で1972年に、日光大谷川で1975年に、都内多摩湖で1979年にそれぞれ1回ずつの記録があるのみで、埼玉県内では確実に記録はなかった。30羽くらいのコガモの群れと共に陸上のアシの陰で休んだりしていたが、翌9日には飛去った。

### マナヅル（ツル科）

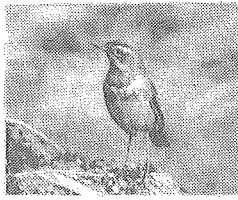
江戸時代の記録に、今の上尾市と伊奈町の境界付近の沼で繁殖したとの記載があるのみで、その後県内ではまったく姿を見る事なかったマナヅルが、1984年3月11日、浦和市大久保地区の荒川河川敷に飛来した。後頭部が黒く見えるところから亜成鳥であろうと言

われる。この写真は雪のふった翌日（3月15日）に撮影されたもので、さかんに採餌しているくちばしに、しめった土が付着している。



### オガワコマドリ (ヒタキ科)

1983年11月23日、桶川市内の荒川河川敷で発見され、1984年2月12日まで雄2羽が(途中で1羽となったが)観察された。数

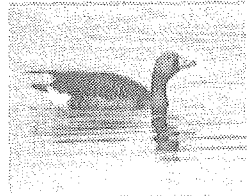


少ない冬鳥として渡来する。県内では1956年2月25日に北葛飾郡東和村で雌1羽採集、1973年に熊谷市荒川べりの荒川大橋から久下橋の間の草地で観察写真撮影、1979年2月浦和市内の休耕田で雌1羽が観察写真撮影された3例があるのみであった。

### マガン (ガンカモ科)

1983年10月30日、川越市伊佐沼にマガンの若鳥1羽がおりているのが発見された。かつて越谷から三郷にかけての低地帯は、全国でも有数のガン類の渡来地であったが、1960年ごろを境にその姿を消した。その後1978年大宮市と本庄市、1979年浦和市などで観察

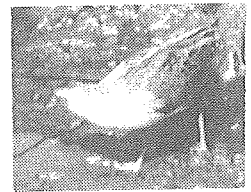
が報告されているが、長期間多数の人によって写真撮影までされたという確実な渡来はほぼ20年ぶりであった。11月8日まで滞在した。



### ヒメクイナ (クイナ科)

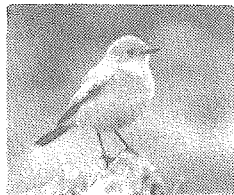
1981年10月11日、海老原美夫が浦和市内さくら草公園横の鴨川岸で1羽を観察、写真撮影した。日本には夏鳥として渡来するが多くない。ムクドリよりずっと小さくスズメより少し大きい。姿を見ることはなかなか難しい。県内では不確実な目撃報告はいくつかあ

ったが、確実な記録としては、1954年4月30日、志木市の荒川沿岸で雄1羽が採集されたのが、それまで唯一の例であった。



### サバクヒタキ (ヒタキ科)

1968年1月に都内板橋区で発見されたのがそれまで国内の唯一の記録であったサバクヒタキが、1980年11月15日、戸田市立戸田中



学校科学部の萩谷洋先生と部員たちによって戸田市新曽の荒川河川敷内の工事現場で発見された。くちばしは細く黒い。足も黒色。全体に砂褐色で、飛ぶ時に尾をひろげると、先端に黒い逆T字形が見えた。12月1日まで、活発な採餌行動などが観察された。

### ツグミ (ヒタキ科)

10月下旬頃になって、北国から渡って来たツグミのクィクィという声を聞くと、いよいよ冬鳥のシーズンである。始めは小群で疎林などで木の実をついばんでいるが、やがて散らばってゆく。

寒さもきびしくなる頃には、農耕地や公園などの開けた場所に、ナワバリを確保して単

独で生活している。かなり、ナワバリ意識が強く、境界付近では取っ組み合いの争いが見られる。

明るい陽ざしに包まれて、地味だった茶色の翼に赤みが増す頃になると、林はずれの梢から、思いがけなく美しいさえずりが聞えてくることがある。(表紙の写真と文・松田 喬)

## オオハクチョウ 2092

小荷田 行 男（浦和市）

冬枯れの白い化粧をした砂丘を登って行くと、荒れた海をそのまま凍らせたような見渡す限りでこぼこの流氷野が広がり、振り返れば砂丘を隔てて濤沸湖は一面の平らな雪原と化し、湖口には灰色をしたわずかばかりの開水面が広がっています。そこには約200羽のオオハクチョウをはじめホオジロガモ、クロガモ、マガモ、ウミアイサがひしめいています。よく見るとオオハクチョウの群の中に緑色の首環をつけた鳥がいます。2092と読み取れます。

オオハクチョウ2092は1982年1月23日、青森県陸奥湾の小湊で雄の成鳥として標識、放鳥されたものです。この標識鳥を確認したのが1984年3月17日、放鳥から2年経過しています。オオハクチョウは3歳で繁殖能力を持つ成鳥になると言われています。2092はこのとき少なくとも5歳です。オオハクチ

ョウはシベリアの北緯50度から60度の亜寒帯針葉樹林地帯の湖沼や湿原で繁殖します。2092は5年以上に渡って冬日本で過ごし夏シベリアで繁殖を繰り返してきました。オオハクチョウにとって5歳と言う年齢はそろそろ繁殖能力の峠を越えています。

4月上旬、今までびっしりと覆っていた流氷が沖合に去り海開けとなります。4月下旬オオハクチョウはようやく来た春を確かめるかのように、次々と鉤形に竿形に編隊を組んで北へと飛び立ち始めます。オオハクチョウ2092が家族を連れて来秋も又この国に戻ってくれることを祈りながら、北へ帰る白鳥の姿を見送っていました。

（編集部注：オオハクチョウは県内では、1973年12月本庄市と妻沼町付近の利根川に飛来した記録があります）

## オオコノハズクの目の色は



昨年12月22日 蔵市内でガラス窓に激突したオオコノハズクが保護された。連絡を受けた県支部事務局で引取って、県委託獣医さんの指導のもとに2日間看病することとなったが、その目の色が話題となった。薄目をあけているだけでなかなか見せてくれない目（虹彩）の色が、昼間ちらりと見えた時は、ほとんど黄色に見えた。図鑑によっては、オオコノハズクの虹彩は黄色のものもあるとの事だが、疑問符のままでおいていたところ、夕方になって見えた虹彩は、かなり赤味が強くな

っていた。昼間は瞳孔がせばまっているために虹彩が広がって色が薄くなり、夜になると瞳孔が広がり虹彩がせまくなるので色が濃くなるのかな、などと話し合っていたが、ストロボ撮影した写真（左）が後日現像できたのを見ると、その虹彩は肉眼で見るよりずっと赤く写っていた。光源や眼底からの反射光の関係もあるようだ。

特徴のひとつである首の後の輪を見ようと背中にもまわると、顔をそれにつれて真後ろにもまわしてこちらを向いたまま。後側を見せてくれない。他の者に注意を向けさせてようやく確認。近付きすぎるとくちばしで鋭くパシッパシッという音をたてて威嚇するなど、話題を提供してくれたオオコノハズクは、頭を打った後遺症がない事が確認されて、12月24日の夜、秋ヶ瀬公園で放鳥された。

# 野鳥情報

カシラダカ ◇11月4日、八潮市西袋。(中村雅和) ◇12月30日午後1時、大宮市清河寺に約100羽の群。(森本国夫)

タゲリ ◇11月23日、幸手町上吉羽に80羽以上。(秋間利夫) ◇12月30日午前11時、浦和市内サギ山記念公園近くの水田に30羽。(海老原美夫) ◇12月31日午前10時半、大宮市清河寺の水田に22羽。(森本国夫) ◇1月3日、寄居町桜沢の山崎地区の水田に1羽。(小島隆行)

コチドリ ◇11月23日、幸手町上吉羽に1羽。(秋間利夫)

キジバト ◇11月27日、桶川市桶川中学のイチョウの木から2羽巣立ち。(高橋仁)

カムリカイツブリ ◇12月16日、浦和市秋ヶ瀬の荒川のカモ群中に2羽。(原山敦) ◇12月21日午後、戸田市道満の荒川に1羽。(小川智弘)

トモエガモ ◇12月17日午後2時、戸田市

の荒川に♂♀各1羽。(高橋達也) ◇12月25日午後1時、滑川町の森林公園の山田大沼に♂5羽。(今井明巨)

フクロウ ◇12月21日午後3時半、浦和市内のサギ山記念公園近くで1羽がカラス20羽位にモビングされヤブからヤブへ逃げていた。(松井昭吾)

ノスリ ◇12月21日午後3時半、浦和市内のサギ山記念公園近くの鉄塔に1羽。(松井昭吾)

ミヤマホオジロ ◇12月24日午後1時半、熊谷市大麻生野鳥の森に♀1羽。(今井明巨)

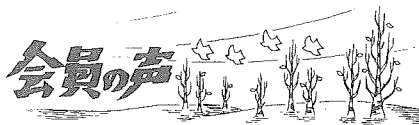
アメリカコガモ ◇12月28日午後1時頃、戸田市の荒川に♂1羽。(高橋達也)

ムナグロ ◇12月29日午前10時半、大宮市三橋6丁目の鴨川に1羽。(森本国夫)

トラフズク ◇12月30日午前10時、浦和市内見沼田圃近くに2羽。(海老原美夫)

ケリ ◇12月30日午後12時半、大宮市清河寺の水田に1羽。(森本国夫)

ミツユビカモメ ◇1月3日午後零時半、大宮市深作の調整地に2羽。(森本国夫) 埼玉県内で初の記録。



## (年賀状編)



鈴木暁子(鶴ヶ島町)



野原文江(玉川村)



子雀みゆき(川口市)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。(2月10日の分だけ予約が必要)  
筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以下=50円です。

### 2月3日(日) 本庄市 阪東大橋

午前9時30分高崎線本庄駅改札前集合  
(浦和8:13発→大宮8:19→熊谷9:02→  
本庄9:27着/寄居8:22発→熊谷8:49着  
乗換/川越7:40発→大宮8:10着乗換)  
午後1時ごろ解散。コハクチョウやたくさ  
んの鴨たち。(担当・田村照治、石井生高)

### 2月10日(日) 茨城県 菅生沼

午前8時30分東北線蓮田駅東口広場集  
合。(浦和8:06発→大宮8:13発→蓮田  
8:23着/熊谷7:26発→大宮8:09着東北  
線乗換)何台かの車に分乗して菅生沼まで  
約1時間。コハクチョウはもちろん、ハヤ  
ブサも飛び、干潟にはタゲリも。とにかく  
盛りだくさん。午後4時ごろ蓮田駅前で解  
散の予定。車に分乗するので定員約30名。  
調整の為事前に事務局に申込み。車に同乗  
する人は参加費以外にガソリン代500円負  
担。車を提供してくださる方、お待ちして  
います。(担当・中島康夫)

### 2月17日(日) 浦和市 三室地区(浦和市 立郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19  
発→大宮8:02→京浜東北線乗換)または  
午前9時市立郷土博物館前集合。午後1時  
頃解散。(担当・西城戸司)

### 2月25日(月) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時赤羽駅京浜東北線ホーム北端  
(川口寄り)集合。赤羽始発の電車に乗っ  
て品川駅まで行き、品川駅東口からバス、  
午前9時半ごろ大井野鳥公園着。午後1時  
ごろ現地解散。そろそろ帰りたいのかモ  
たちに、別れをつける。(担当・佐々木勉)

### 3月3日(日) 長瀨町 宝登山

午前9時秩父鉄道長瀨駅集合(大宮7:31  
発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗換熊谷8:19  
発→長瀨9:05着/東武東上線志木7:38発  
→川越7:50発→森林公園乗換→寄居8:45  
着→秩父鉄道乗換寄居8:45発→長瀨9:05  
着/秩父鉄道御花畑8:17発→長瀨8:41着)  
梢を渡るカラ類の混群を見付けるのが楽し  
みです。(担当・田村照治、石井生高)

### 3月10日(日) 本庄市 阪東大橋(群馬県 支部合同)

午前9時30分高崎線本庄駅改札前集合  
(浦和8:13発→大宮8:19→熊谷9:02→本  
庄9:27着/寄居8:22発→熊谷8:49着乗  
換/川越7:40発→大宮8:10着乗換)午後  
1時頃解散。カモの大群とそれを狙うタカ  
の仲間。(担当・海老原美夫)

### 3月17日(日) 浦和市 三室地区(浦和市 立郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口集合(熊谷  
7:19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)ま  
たは午前9時郷土博物館前集合。午後1時  
頃解散。ヒバリが舞い上がる早春の見沼田  
圃を歩いてみませんか。(担当・西城戸司)

### 3月24日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分秩父鉄道大麻生駅集合(大  
宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗  
換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩父鉄  
道寄居8:22発→大麻生8:40着)12時頃  
解散。ウグイスの初鳴き、ツバメの初認の  
季節。(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井  
明巨)

# 探鳥会報告



12月16日(日) 浦和市 三室地区

人 60人 天気 曇 鳥 コサギ コジケイ イカルチドリ ハマシギ クサシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (以上31種) 小道の上のカキの実をついばむ2羽のメジロという絵のような風景、木陰に見えたアカハラ、芝川では今季初めてのハマシギの群舞。前月よりぐっと増えたツグミ、道をはさんでのアオジとウグイスの地鳴きの競演。いろいろ楽しめました。



石井生高宅のミニサンクチュアリを見学  
(鐘撞堂山探鳥会)

1月6日(日) 寄居町 鐘撞堂山

人 31人 天気 晴 鳥 コサギ マガモ トビ オオタカ ノスリ コジケイ キジバト キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメスズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (以上31種) オオタカとノスリの飛翔を順光でじっくり見られ、識別の勉強になりました。

1月13日(日) 所沢市 狭山湖

人 33人 天気 晴 鳥 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (以上33種) ガン・カモのカウントを兼ねた探鳥会。トモエガモ、ミコアイサ、80羽以上のカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、オオタカなど、魅力的な鳥たちが見られたのですが、その誘惑に負けないで最後まで頑張ってカモをカウントしていた人たちご苦労さんでした。本部の金井さん、どうもお世話になりました。

## 武蔵野野鳥生態写真研究会展

### 野に生きる鳥たちII

期間：昭和60年2月7日(木)～2月12日  
(火) 午前10時～午後6時 最終日午後4時(水曜休館)

会場：新宿オリンパスギャラリー(新宿区新宿5-17-9、新宿野村証券ビル9階、オリンパスフォトラザ内)

問い合わせ先：TEL03(209)8621

## 日本鳥学会例会(一般参加自由)

テーマ：鳥のおもしろい行動

講演：ササゴイの採食行動(樋口広芳)ほか  
日時：昭和60年2月23日(土)

午後2時～4時

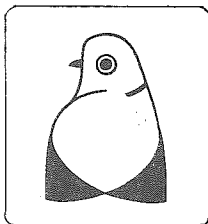
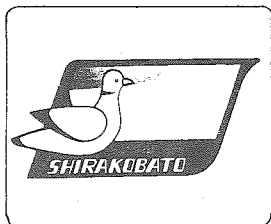
場所：上野動物園ホール(上野動物園西園モノレール脇)

参加費：入園料が必要。例会参加費は無料。

問い合わせ先：TEL03(364)2311

## 連絡帳

### シンボルマーク応募作品 2 例御紹介



### 初級リーダー研修会のお知らせ

はじめての初級リーダー研修会を開きます。参加資格は、取りあえずは極く一般的な野鳥の識別ができれば、あと必要なのは「熱意」です。探鳥会参加何回以上とか、鳥歴何年以上とかの制限はいっさいもうけません。自然保護活動の基盤となるリーダーを目指して、あなたも参加してみませんか。事務局まで御連絡下さい。

テーマ：より良い探鳥会の運営

内容：講義とディスカッションなど

日時：3月31日(日)午前10時～午後4時

場所：浦和市立コミュニティセンター

(浦和駅西口より徒歩約10分)

参加費：無料(昼食代、交通費は各自負担)

### 御意見をお聞かせください

4月からの新事業年度、5月の総会をむかえて、役員会では、来年度の事業計画案の作成作業が始まります。今後の支部の歩む方向について、あなたの御意見をはがきなどでお聞かせください。

### 題字「しらこばと」：日本野鳥の会会長・山下 静一

『しらこばと』	1985年2月号(第9号) 頒価100円(会費に含まれます)
	発行人 今井 昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部
発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号	
電話 0488(32)4062	
郵便振替 東京9-121130	銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金 316990
印刷所 埼新印刷株式会社	

### お答えします

先月号の4ページ掲載、田中智恵子さんの「探鳥会では自己紹介を」という御意見は、大変重要なものを含んでいると思われます。参加人数によっては自己紹介などがむずかしいこともあると思いますが、それにかわる名札などの方法も考えられます。初級リーダー研修会の場などで、検討して行きたいと思います。

### ご寄付にお礼

次の方々から御寄付をいただきました。ありがとうございました。(敬称略・50音順)  
加藤義春 10,000円、藤野克裕 1,000円。

### 会員数

1月20日現在で447名です。



今月号は連絡帳が多くなって、事務局日誌はお休み。それだけ支部の活動が活発になったということでしょうか。

できるだけ新鮮なデータによるホットな誌面作りを目指しているのですが、いかがですか。

いつものことですが、表紙用の写真、イラスト、カット、原稿、野鳥情報、それから編集を手伝ってくださる方、みんなまとめて大募集中です。編集部員の内2人が体調をくずし、人手不足です。よろしく願います。

(海老原美夫)

(無断転載を禁じます)